

ほくとライブラリー



新屋図書館だより



発行 秋田市立新屋図書館

秋田市新屋大川町 12-26

Tel 018-828-4215

<http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/al/default.htm>

(携帯用)<https://www.lib.city.akita.akita.jp/opac/wopac/pc/mSrv?dsp=TP>

No. 199

H30. 5月号

今年もやります！ブックリサイクル

日時：平成30年5月26日（土）

午前10時～午後4時30分

会場：新屋図書館 研修室

※人数が多い場合は午前9時45分から
整理券をお配りします

※くわしくは、チラシまたはホームページを
ご覧ください

おねがい

読み終えた小説・児童書・雑誌
などがありましたら、
ブックリサイクルにご寄贈ください。

受付期間：5月23日（水）まで

※全集、問題集、百科事典、落書きがある本、
住所氏名が書かれた本、汚損・カビのある本等は
受付できませんのでご了承ください。

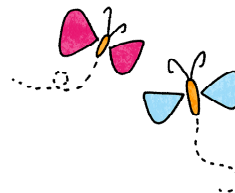
5月のおはなし会

5月8日（火）10:30～11:00

たんたん たんぽぽ

～手袋人形・手遊び～

（おはなしのへや・赤ちゃん～）



5月12日（土）14:00～14:40

若草の中で

～エフロンシアター・絵本～

（おはなしのへや・幼児～小学生）

新 刊 案 内

60歳からはじめるSNS

岡本 ゆかり・岡村 秀昭・後藤 宏／著
日経BP社 請求記号 007 (SNS)

家族間のやり取りはもちろん、前号で取り上げたbonponさんや、72歳からカメラを始めて面白自撮りを公開し現在話題の88歳の西本さんなどのように、SNSでの発信・共有を楽しんでみませんか。大きな文字と多用された写真で読みやすく、丁寧に解説されています。



不都合な真実2

アル・ゴア／著 枝廣 淳子／訳
実業之日本社 請求記号 451 (環境問題)

ベストセラーノンフィクションの第2弾。世界で何が起って何が問題になっているかを知ることができます。もちろんここに記載されたことが全てではないですし、真実は他にあるかもしれません。それを踏まえて、どうすれば将来が良くなるかを考える一助に。



遺言。

養老 孟司／著
新潮社 請求記号 914 ヨ (エッセイ)

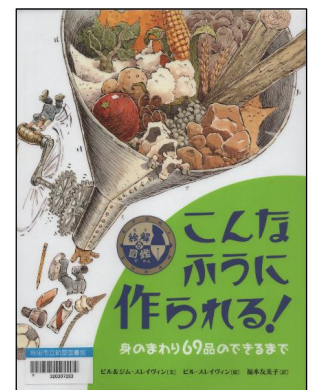
『バカの壁』でおなじみの養老孟司さんが、死を意識する80歳という年齢にさしかかり、「言い残したいことを書いておこう」と思い立って書かれた“遺言1.0”です。「意識」「身体」「言葉」など、様々なキーワードとともに思考が繰り広げられます。



こんなふうに作られる！身のまわり69品のできるまで

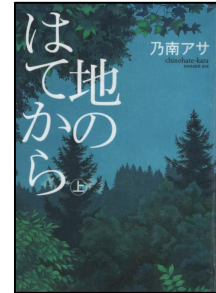
ビル&ジム・スレイヴイン／文 ビル・スレイヴイン／絵 福本 友美子／訳
玉川大学出版部 請求記号 50 (ぎじゅつこうがく)

食べるもの、着るもの、遊ぶもの、昔の人が見たらビックリするに違いない便利な物たち。いったいどうやって作っているの？見開き2ページでわかりやすく紹介。自然のなかにある植物、鉱物、石油が、どんなふうに形を変えていくのかも見てみましょう。



図書館員（藤坂 徹）のおすすめ本

書名	地のはてから（上）（下）
著者名	乃南アサ／著
出版社	講談社
所蔵	新屋、明德館、土崎、雄和 請求記号 F ノ （日本の小説）



大正初期、極寒の地、知床へ開拓民として逃げるようにやってきた一家。国が作ったバラ色の移住手引書は嘘八百で、想像を絶する悲惨な現実が待つ。日の光さえ入らない原生林、あたり一面のクマザサはとても畑にできるものではない。ようやくの思いで畑にし、死にものぐるいで育てた作物は、バッタの大群に食い尽くされてしまう。子供の教育どころか生活のための

道すらなく、冬は凍えるばかり。一家は瞬間に困窮するが、父は頼りにならない。その父もやがて事故で亡くなってしまふ。それでも懸命に家族を守る母つねと娘のとわ。とわは口減らしのため12歳で奉公に出されるが、その後の人生も波瀾万丈。過酷な環境の中で、ひたむきにたくましく生き抜いた母娘。失ってしまった日本人の原点がここにある。

図書館員（鈴木 樹久代）のおすすめ本

書名	物語と歩いてきた道
著者名	上橋菜穂子／著
出版社	偕成社
所蔵	明德館 請求記号 914 ウ （日本のエッセイ）



NHKでドラマ化された「精霊の守り人」や「獣の奏者」、2015年本屋大賞を受賞した「鹿の王」などの著者である上橋菜穂子さんの単行本未収録のインタビューやスピーチ、エッセイ、書店でのフェアのために選書した約700冊のリストを集成した、インタビュー・スピーチ&エッセイ集です。

2014年には「児童文学のノーベル賞」と

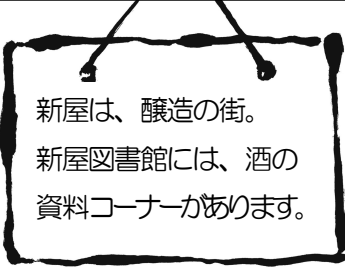
呼ばれる国際アンデルセン賞の作家賞を受賞しており、現在、文化人類学者として川村学園女子大の特任教授も務めている著者の、壮大な物語を生み出す背景を知ることが出来ます。

興味を持たれた方は、他のエッセイ「明日はいずこの空の下」、荻原規子さん、佐藤多佳子さんとの共作「三人寄れば、物語のことを」も併せて是非。

記事になったお酒の話題あれこれ・・・春色の日本酒・・・

春といえば桜、桜といえばピンク色。お酒の中でピンクといえばワインのロゼですが、日本酒にもロゼのような美しい桜色のものがあるのをご存知ですか？ 本来無色（もしくはにごり酒の白色）の日本酒がピンク色になる理由は大別してふたつ。ひとつは古代米（赤米）を使用することによる発色、もうひとつは醸造の際に仕込む酵母による発色です。

金紋秋田酒造で作られている「X3 Rose」もそんな春にぴったりの色をした日本酒のひとつ。イチゴのような柔らかく爽やかな酸味と控えめな甘さは、みずみずしい野菜や脂ののった魚、フレッシュチーズとの相性が抜群です。是非ご賞味あれ！



新屋は、醸造の街。
新屋図書館には、酒の
資料コーナーがあります。

【参考資料】

たる 2018年4月号
金紋秋田酒造公式サイト

平成ってどんな時代？ …平成13年…

平成13（2001）年1月1日、この日から21世紀がスタートしました。

晴れ晴れしい新しい年でありながら、平成13年と言えば、なんとといっても9月11日のアメリカ同時多発テロ事件が真っ先に思い浮かぶのではないのでしょうか。旅客機がニューヨーク世界貿易センタービルに衝突し、ビルが倒壊する映像は、まるでハリウッド映画を観ているような現実とは思えない感覚に陥った人も多かったと思います。この日を境に世界中が変わったといっても過言ではないでしょう。テロに屈しない世界は、防衛と攻撃力に力を入れ、監視社会が広まりました。

日本では、愛媛県立宇和島水産高校の実習船が米軍の原子力潜水艦と衝突し9人が帰らぬ人となる痛ましい事故が起こり、大阪の池田小学校に刃物を持った男が乱入して8人の幼い命が奪われ、東京歌舞伎町の雑居ビルの火災により44名が亡くなる事故も起こりました。

そんな暗い話題の多かった年の12月に、皇室にて愛子内親王がご誕生され、国内が幸せな気持ちに包まれました。

【参考資料】「世界年鑑2002」「秋田魁年鑑2003」

図書館員のひとりごと

このたび新人職員として採用され、新屋図書館へ配属となりました。

“新人”といっても、実は昨年度まで嘱託職員として勤務しており、図書館業務については経験者でもあります。ですので「どこかで見たことあるな…」という方もいらっしゃるかもしれません。（フォンテ文庫と明德館で計7年勤めていました。移動図書館イソップ号に乗っていたこともあります）

この図書館だよりが発行される頃には、社会人8年目に突入します。知識と経験を活かしながら、新人らしく(?)フレッシュに頑張ります。よろしく願いいたします。（佐藤）

社会人一年目を新屋図書館で過ごすこととなりました。初めての仕事は覚えることも多く慣れないことばかり。混乱と猛省の日々です。

そんな時、私は自分のバイブルを読み返します。「もがきあがくことで、世界は広がってゆくんた」（香月日輪・妖怪アパートの幽雅な日常より）この台詞は私に試練や困難に立ち向かう勇気を与えてくれます。

優しいお言葉を掛けてくださる地域の皆様、頼れる職員の方々への感謝を忘れず、これから広がっていく世界を見つめ、全力でもがきあがきながら日々努力を重ねていきます。どうぞよろしく願いいたします。（近間）